

Uyemura, T. - A provisional list of spiders from
Wakayama Prefecture, Japan.

和歌山縣産蜘蛛目録

植 村 利 夫

東京市澁野川區西ヶ原町 310

〔昭和十一年八月十日受領〕

和歌山縣の蜘蛛を初めて研究したのは故湯原清次氏である。同氏の著「蜘蛛の研究」には和歌山縣産の蜘蛛が百十數種記載されて居る。其の後を受けついだのは潜越乍ら小生であつた。爾來五箇年の星霜を経來つたが、湯原氏の如き熱と意氣を持たない小生には、未だに紀州に産する蜘蛛の全貌を明らかにすることが出来ない。而し湯原氏の當時に較べて、種數に於て約70の増加を見るに至つたので、此處に改めて目録を編んでみるのも徒爾ならずと考へた次第である。

由來和歌山縣は氣候溫暖にして多くの生物を産する。蜘蛛に於ても寒地性又は熱地性の特殊なものに乏しいとは云へ、本邦産の代表種が殆ど網羅されてゐると云つても過言ではない。此の點に於て本目録は各地に産する蜘蛛の種類と比較して下さると何らかの暗示を得られるのではないかと思はれる。

紀州の蜘蛛相を概観するに、前記の如く主として本邦産を代表する普通種ではあるが、どちらかと云へばマメイタキセグモ及フリナラクネの如き熱帶系の分子を含んだ方で、寒地性の蜘蛛は殆ど産しないと云つてよい。例へば中部以

東に最も普通なナカムラオニグモの如き種でさへ紀州からはまだ一頭も採集されてゐない。こうした事を論ずるのは興味あることであるが、又後日の機会を待つことにする。

現在日本には一千種以上の蜘蛛を産すると思はれるが、遺憾乍ら正確な數字が不明である。これは同好者にとつて甚だ残念な事である。日本産の蜘蛛目録を作つてほしいと云はれる方が度々あるが、これは中々の大仕事で一朝一夕の問題ではない。故にどうしても先づ各地の蜘蛛目録を發表していただいて、而る後漸次それを纏めて完全な日本産の目録に仕上げなければならないと思ふ。そうした希望を抱きつゝ本目録を其のトップとして發表する次第である。

日本の蜘蛛を研究するに最も手近な参考書としては故湯原氏の著述があるのみで、これには前記の如く和歌山縣産の蜘蛛が記載されてゐるのであるが、遺憾乍らこれに出て来る學名には所々に誤植がある。例へば *Zelotes* と云ふ屬名がどうしたことから全部 *Zetes* となつて居るが如きである。こうした誤植は本目録と對照して訂正していただきたいと思つて學名には可なりの注意をした筈である。

目録の終に和名及屬名の索引を加へたのは、和名を知つて學名を知らない人、學名を知つて和名を知らない人、又學名も和名も知つてゐるが科名を知らないと云つたやうな方々の参考にもなればと思つたまでである。

大體以上の様な目的で本目録に掲載することにした。まだまだ和歌山縣産の蜘蛛目録とするには大いに物足りない感じがしないではないが、後日又判明の分は補充する事にする。勿論本目録に掲げた分は種名まで確實なもののみで、現在屬は明らかであるが種名の尙未確定のものは他に何十種もあることをお含みおき願ひたい。

本目録配列の順序は岸田久吉氏の蜘蛛目新分類體系（1930）に従つた。

終に小生が蜘蛛の研究に着手して以來五箇年の間、常に御親切に御指導を賜つて來た岸田先生に、又小生に蜘蛛の研究を奨められ直接間接非常に御援助と

御鞭韃を賜つた恩師坂口總一郎先生並に大阪毎日の西瀬英一氏に、度々貴重な標本を御惠與下さつた木本茂・尾崎光太郎・和田文雄・大前榮次郎・上野安造・梅本義一・松本彰夫・山中薫・浦富夫等の諸氏に謹んで感謝の意を捧げる。

現在和歌山縣に産する種名まで明らかなる蜘蛛は次の28科104屬178種である。目録に移る前に先づこれが分類表をかゝげて目次に兼用する。

和歌山縣産蜘蛛分類表 (目次)

(科 名)	(屬 數)	(種 類)	頁
ト タ テ グ モ 科	1	2	85
デ グ モ 科	2	2	85
ホ ノ シ ン グ モ 科	2	2	86
タ マ ゴ グ モ 科	1	1	86
ハ グ モ 科	1	1	86
ウ ツ グ モ 科	3	3	86
ボ ロ ア ミ グ モ 科	1	1	86
チ リ グ モ 科	1	1	86
ヤ マ シ ロ グ モ 科	2	3	86
ヒ メ グ モ 科	7	12	86
サ ラ グ モ 科	3	6	87
セ ン セ ウ グ モ 科	1	1	87
ユ ウ レ イ グ モ 科	2	3	87
ヒ ラ タ グ モ 科	1	1	87
コ ガ ネ グ モ 科	20	47	88
ミ ツ グ モ 科	1	1	89
キ シ グ グ モ 科	2	5	89